



新緑はいよいよ深まり、緒絶川端では藤の花房が
川面に映える季節となりました。

た。昨年は母校で待たしに待った新校舎が落成しました。新しい時代に相応しく、近代的で創意工夫に富んだ素晴らしい校舎です。教室にも廊下にも光が満ち溢れ、完成までに携わった多くの方々の一方ならぬ五日のが認められていました。十月二日に執り行われました。落成記念に同窓会より寄贈させていただいた演台は、まさしく晴れの舞台で、同窓生の祝意を抱つて立派にその役目を果たしました。落成記念として、三代の校舎と校歌・校章の入ったファイアルを用意しましたので、同窓会本部・各支部の総会に出席された折にお渡し出来るかと思います。新しい校舎は在校生の皆さんのが若い声が満ち溢れ、未来に向けて始動しました。力強い根を育て、世界中のどこかの地にしつかりと根付き、大きな花を咲かせる日が来ることを願つて止みません。

昨年度は関東・古川・田尻・仙台の四支部で総会がもたれ、百五十名程の同窓生が集い旧交を温めま

感動的な試合でした。新校舎の見学もさせていただき好評をいただきました。

十一月にはW.B.A女子世界スーパーフライ級タイトルマッチで藤岡奈穂子選手(四十六回生)が見事勝利し、初の二階級制覇を成し遂げました。今回も新しい校庭に移植された白梅がこの春に無事花をつけました。三月、新聞紙上に母校の中学生の一文が投稿されました。「地震にも負けずに私たちを励ますかのような、たくましい白梅でした。白梅とともに歩んだ三年間、最高の中学校生活でした。」白梅のもとにつながってきた共通の思いに出会い、感動しました。いろいろな感動に出会える同窓会の活動に一人でも多くの方が参加下さるのをお待ちしております。

最後に、母校と同窓会白梅の益々の発展と、皆様のご健康をお祈りしてご挨拶と致します。



恩師今野 優先生

私の中の古女

私は平成十三年三月に定年退職するまで十八年間古女に勤務していました。四十二歳から六十歳まで私は人生の後半の中心的部分を古女で過ごしたことになる。その時間は私にとつて実に稔り多いものであつたから、「大変だ」と思うことがあつても、「嫌だ」と思つことは一度もない。古女は近郷近在から集まつた才媛の集団であった。この場合の才媛

は、同窓生の皆様におかれましては、日頃より本校の教育活動に對し、ご理解、ご協力とご支援を賜り深く感謝申し上げます。

さて、本校は今年開校九十四周年、そして併設型中高一貫教育校「古川黎明」として十年目の節目を迎えた。昨年夏に完成した新校舎を有効活用し、生徒たちは授業、学校行事、部活動に一生懸命に取り組んでおります。新校舎玄関前に移植いたしました校木の「白梅」も、今年四月始めに



宮城県古川黎明中学校・高等学校
校長 庄子 英利

媛とは、学問・才能にすぐれた女性、という辞書的意味に加えて、他人の立場に我が身を置いて考え、その人に共感することのできる賢い女性という意味も含んでゐる。古女は全員そのような才媛の学ぶ樂園であつた。

私は、「女子たるもののは」とか、「日本男子たるものには」などと日本走つてしまふフィクションに深く犯されているところがあつた。そうした悪癖の退治法は、物の本には書いてあるのだが、実例を前にしないとなかなか困難なものである。そのような私の前に、古女先生は正しいことを正しいとして前進して行く姿を見せてくれた。その姿は清新で潔いものだつた。男か女かという区別の前に、「人間として」という觀点が大切なのだといふ。当たり前の認識を得るのに、私は長い時間をかけてしまつた。私はいつの間にか百パーセントのフェミニストになつてゐた。人間とはかくも変貌ができるものだらう

これまでと同じ見事な花を元気に咲かせてくれました。また、平成二十四年度に文部科学省から指定された「スバーサイエンスハイスクール（SSH）」も三年目となり、実績と効果も目に見え始めて参りました。大学や研究施設との連携による各種の科 学講演会や校外研修、アメリカカリフォルニア海岸シリコンバレーでの研修、タ イのプリンセス・チャラボーン・カレッジ・サトウン校との交流、自然科学部生徒による英語による研究発表なども実施しました。さら に、高校一年生が班別にボスターを一発表した防災科学課題研究発表会や、高校二年生が五十五のグループに分かれてポスター発表した課題研究発表会を開催し、お招きいたしました。本校では例年キヤツチフレーズを生徒に公募しております。今年

かと我ながら呆れる程である。さて、私の自己改造について述べてきたが、それは古女生に会つて触発されたが初めて初めで可能であった。一方私は古女生たちを触発できる触媒の一生になれただろうか。そこに考えを進めるとぞろ秋風が立つ思いがする。私は古女の卒業生が現在でも高校生だった時のようになります。清く、正しく、真っ直ぐに日々の厳しい現実の中を歩んでおります。ようによく祈つてゐる。否必ずや、そうであろうと信じていふ。と、ここまで書いてきた時、「それは勝手すぎます。」という声が聞こえたような気がしたが、老人の空耳であつたとわかり、ほつとしている。

最後になるが、最大の願いをこめて、古女同窓生の末長い幸福を祈つてゐる。

黎明」と決まりました。今後とも生徒、教職員、保護者そして同窓生が「チーム黎明」として一体となり、これまで長年培われた歴史と伝統を踏まえ、飛躍して参りたいと考えております。

最後になりますが、昨年本会報にて、旧校舎の解体と新グラウンド整備の予定についてお知らせいたしましたが、沿岸部の震災復興事業を優先するごと等から、解体は平成二十七年冬以降に延期され、新グラウンド整備計画も、残念ながら、平成二十八年度以降と大幅に遅れる見通しとなりました。

六年後には、いよいよ創立百周年を迎えます。同窓生の皆様には、今後とも変わらぬご支援並びにご協力を賜りますようお願い申し上げ、ご挨拶といた

黎明の進路

進路指導部長 玉田賢司

今春、古川黎明中学校・高等学校となつて初めて、医学部医学科への合格者が二名、歯学部への合格者が一名出ました。いずれも、将来は医師として地域の医療に貢献したいと、いう熱い思いをもつ若者たちです。いつか必ずその大志を果たしてくれることでしよう。

彼らに限らず、古川黎明の卒業生には地域に貢献したいという熱い思いをもつた若者が多くいます。「大崎市を若者の目線から活性化したい！」そんな思いをもつた若者が集まつてできたNPO法人アバイン（「アバイン」と読み、方言の「あばいん（意味：おいで、一緒に行こう」に由来）の中心メンバーも古川黎明を卒業した大学生たちです。「若者が活躍できる場を提供するとともに、商店街をはじめとした地域交流を推進する活動」を行つてゐるこの団体、大崎にお住まいの同窓生の方々の中にはすでにご存じの方もいることでしよう。是非ご支援ください。

こうした若者たちが同窓生として社会で活躍してくれることは学校にとって真に誇りです。
最後になりますが、今年度、古川黎明中高一貫生の一期生が教育実習に來ています。東日本大震災のあつたあの三月に卒業した子たちです。月日の経つのは早いものです。震災

からの復興は物理的なものばかりでなく、復興を担つていく人材の育成も不可欠です。医療や経済、教育と様々な分野で活躍する人材を古川黎明から一人でも多く輩出できるよう今後も頑張つていきたいと思います。

今春の主な進路先

○国公立大

北海道大、弘前大、秋田大、岩手大、

東北大、宮城教育大、宮城大、山形大、

埼玉大、群馬県立女子大、新潟大、

都留文科大

○私立大

東北学院大、宮城学院女子大、尚絅

学院大、仙台白百合女子大、東北福

祉大、東北薬科大、東北文化学園大、

共愛前橋国際大、日本工業大、白鷗大、

獨協大、文教大、淑徳大、城西国際大、

神田外語大、大妻女子大、杏林大、

○看護専門学校

石巻赤十字看護専門学校、国立病

院機構仙台医療センター附属看護

助産学校、仙台徳州看護専門学校、

旭中央病院附属看護専門学校、

君津中央病院附属看護専門学校

○公務員・民間就職

大崎市職員、警視庁警察官、航空

自衛隊一般曹候補生、アルプラス電

気株式会社古川工場、YKKAP株

式会社東北事業所、古川農業協同

組合、株式会社西巻、合资会社古

川ポンプ製作所

初代校舎



二代目校舎



三代目校舎



過去3力年の卒業生進路統計

年度	進学							就職		受験準備	その他	卒業人数		
	大学		短大		専修各種学校									
	国公立	私立	国公立	私立	大学校	医療系	一般	海外進学	公務員	民間				
2013	28	151	0	8	2	11	14	3	4	5	13	2	241	
2012	24	140	1	11	0	18	18	0	8	1	17	0	238	
2011	40	122	0	7	0	24	15	0	2	2	20	1	233	

支部だより

古川支部

古川支部総会は例年の如く七月第一日曜日（本年度は七月七日）に会員三十名の参加をもって開催されました。今回の講演は「詐偽犯罪からお財布を守る為に」という題で、とくに近年高齢者が標的にされていることの多い犯罪等について消費生活相談員の方からお話を伺うことができました。懇親のひとときには同窓の姉妹と一年ぶりの再会を喜びあい、歌や踊りに一段と磨きのかかったアトラクションに拍手喝采、楽しい時を過ごしました。

総会終了後、黎明校長庄子先生が私達をご案内して下さり、完成あい成つた素晴らしい新校舎を拝見致し大感動でした。時代は新世代を求めて前進しているという思いがしました。

支部長 庄司美和子

「年二回の語らいを楽しみに」

田尻支部

二十三年十一月に、初代平野支部長のお力でようやく誕生した「田尻白梅会」。

二十四年度の総会は沼部公民館で、恩師の相澤信先生をお招きして「生活リズムと睡眠」の講演を拝聴致しました。



二十六年の総会は、七月二十一日にパレットおおさきで移動総会とし、午後は大ホールで、母校の後輩「コーラス部」の発表を聴くことになります。会員達は、大崎市のバスで古川まで移動し、コーラスを聴くのを大変樂しみにしています。

関東支部同窓会は新緑の五月末開かれました。今年は本部のご協力で高女、古女、黎明のDVDを千葉会長のご説明で、更に待望の新校舎を校長先生撮影の映像で拝見し、懐かしさと立派な新校舎に目を見張りました。特にシンボルの白梅の移植と四月開花の様子に安堵致しました。六年後のオリンピックの年は高校百周年、中学十五周年の輝かしい年と伺いました。母校の更なる躍進を見守り続けたいと思います。

支部長 佐藤紀久子
支部長 庄司美和子

謹んでお悔やみ申し上げます。

支部長 伊藤 扶佐子

菅原 徳行先生 S 32年～S 38年

笠原 真太郎先生 S 41年～H 元年

瀧谷（佐々木）啓江様 H 8年卒

荒井（小野寺）ゆり子様 S 16年卒

我妻（大内）孝子様 S 36年卒

大崎（遊佐）顕子様 S 14年卒

た。研修会は二月仙台から桂友楽師匠をおよびして新春落語の会を持ち、一般の方々の参加もあり、笑いでいっぱいになりました。

二十五年度の総会後、いきいき三クラブの舞踊や演歌で楽しみました。秋の研修会は新装なった母校の見学としやれこみ、日曜にもかかわらず、庄子校長先生、小林裕美先生にご案内をいたきました。午後は「吉野作造記念館」を見学しました。

一月末新春恒例の旧古川市内四校閑東同窓会では、二十一年目となる年月

に、これまで繋いてくれた先輩方に感謝し、四校がこれまで以上に結束し発展していく事を誓いました。公演は我

が黎明高の三名（昭三十九年卒の鈴木、渡辺、佐野）による「みやぎの民話」

が語られ、故郷の言葉による熱演ぶりに会場は大いに湧きました。三名が在

学中教諭でいらした中島正二先生（八十才）が古高卒としてご参加、教え子を見守つて下さいました。

関東支部同窓会は新緑の五月末開かれました。今年は本部のご協力で高女、古女、黎明のDVDを千葉会長のご説明で、更に待望の新校舎を校長先生撮影の映像で拝見し、懐かしさと立派な新校舎に目を見張りました。特にシンボルの白梅の移植と四月開花の様子に安堵致しました。六年後のオリンピックの年は高校百周年、中学十五周年の輝かしい年と伺いました。母校の更なる躍進を見守り続けたいと思います。

会員の参加は十一名とまだ少ないのですが、声掛けなどで誘いあつた新しい参加者の方も何名かいて嬉しい会になりました。若い方にももとと参加してほしいところですが、他支部の皆様の活動の様子など参考にさせていただきながら考えていくたいと思つております。

最後になりましたが、母校の益々の発展と同窓生の皆様のご健康を心よりお祈り申し上げます。

関東支部

さて、仙台支部につきましては平成二十四年度から懇親会という形で活動を続けておりますが、昨年は十一月七日（木）真福寺さんを会場に、本部から会長の千葉様と副会長の三浦様にお出でいただき、当時の思い出話や近況報告などで、賑やかに楽しいひとときを過ごすことが出来ました。

会員の参加は十一名とまだ少ないのですが、声掛けなどで誘いあつた新しい参加者の方も何名かいて嬉しい会になりました。若い方にももとと参加してほしいところですが、他支部の皆様の活動の様子など参考にさせていただきながら考えていくたいと思つております。

最後になりましたが、母校の益々の発展と同窓生の皆様のご健康を心よりお祈り申し上げます。

支部長 伊藤 扶佐子
支部長 萩原 節子

